



一宮歩こう会 青春の東海道歩き

かわら版 25号

8月27日、第18ステージは、予定では静岡—清水であったが、本隊と観光隊では歩いたコースが大幅に変わった。静岡市は合併して大きくなりこのステージで歩く部分はすべて静岡市なのだが、他に観光資源がたくさんあるからか旧東海道にはあまり力が入っていない。街道には標識もほとんどなく、歩く道としても整備されていない。

観光隊は、一旧東海道でも歩いて愉しくない(風情が無い)部分はカットし、浮いた時間で沿線の名所旧跡を見学する—というのが本来の趣旨だが、そうなると旧東海道を歩くのはほとんどカット、反面見学する名所旧跡はなし、ということになってしまう。

苦肉の策で観光隊のスタッフが考えたのは、街道から外れているが静岡地区で「登呂遺跡と芹沢銈介美術館」と「県立美術館でロダン館」を見学後、街道を歩き、「追分ようかん本店」に寄り、清水に入り「清水次郎長の船宿・生家・墓」を見学するコースである。

本隊は真っ正直に静岡スタートの清水駅前ゴールの14キロを歩いた。

登呂遺跡は、子供頃来た思い出を話していらっしゃる人が多かった。

芹沢銈介美術館は、開館が昭和56年(1981)と新しいこともあって来たことがある人は少ないようで、作品を熱心にみる女性が多かったようだ。

清水といえば次郎長

旧東海道の追分にある「追分羊羹本店」ではほとんどの人が何かを買ったのではないか、「今日だけで1ヶ月分の売上があったのでは」は陰の声。

お店の脇に「是より清水みち」の碑があり、ここから清水道へ入る。「たとえ旧東海道を逸れても、清水に行けば次郎長に挨拶せねばなるめえ」

というわけで、次郎長経営の「船宿末廣」「次郎長生家」を見てお墓のある「梅蔭禅寺」へ。次郎長が明治維新を境に轉身し社会貢献の後半生を生きたとはいけませんでした。

